

事故を予防するための対策

万が一の転落などの事故を防止するため、発熱から少なくとも2日間は、寝ている間でも、特に小児・未成年の患者さんが簡単に自宅の外に飛び出せないようにするために、例えば、次のような対策を取ってください。

- 玄関や全ての部屋の窓に必ず鍵をかける(内鍵、チェーンロック、補助鍵がある場合は、それも使う)
- ベランダに面していない部屋で寝かせる
- 窓に格子のある部屋がある場合は、その部屋で寝かせる
- 一戸建てにお住まいの場合は、できる限り1階で寝かせる



お薬の服用後、気になる症状があらわれた場合には、受診された医療機関にご相談ください。

医薬品リスク管理計画
(RMP)



ゾフルーザで治療される患者さんの保護者の方に 知っていただきたいこと

抗インフルエンザウイルス薬を服用しているかどうかや、その種類にかかわらず、インフルエンザにかかった時は、転落などの大きな事故を起こすおそれのある異常行動(急に走り出す、うろうろと歩き回るなど)があらわれることがあります。

異常行動による転落などの万が一の事故を防止するために、保護者の方は次のことに注意してください。

- ① 異常行動があらわれるおそれがあること
- ② 自宅で療養する場合、少なくとも発熱から2日間、転落などの事故を予防するための対策を取ること

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動を起こすおそれがあります。
(特に発熱から2日間は要注意!)

窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に備えた対策を徹底してください。

異常行動による転落などの事故を 予防するためのお願い

- インフルエンザの患者さんでは、抗インフルエンザウイルス薬を服用しているかどうかや、その種類にかかわらず、異常行動と関係があると考えられる転落死などが報告されています。
- 異常行動は、
 - ① 小学生以上の小児・未成年者の男性で報告が多い(女性でもあらわれる)
 - ② 発熱から2日間以内にあらわれることが多いことが知られています。

異常行動の例

- 突然立ち上がって部屋から出ようとする
- 興奮して窓を開けてベランダに出て、飛び降りようとする
- 人におそわれるような気がして、外に走り出す
- 突然笑い出し、階段をかけ上がろうとする
- 自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
- 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など

